

煽動で強調すべき点

……肝腎なことは、九月の列強の反革命的陰謀がどれほどはっきりした形をとっていなかったにしろ、この陰謀が企てられたことは事実であり、その意義は日一日とますますあきらかになりつつある、ということである。それはプロレタリアートに反対し、民主主義に反対する陰謀である。それはアジアの革命を直接おしつぶすためか、この革命に間接に打撃をあたえるための陰謀である。それはきょうはバルカンで、あすはペルシアで、あさってはおそらく小アジアやエジプト等々で、植民地の略奪と領土的侵略をつづけるための陰謀である。

王位についている強盗どもと国際資本のこの連合勢力を打倒することができるのは、ただプロレタリアートの世界革命だけである。すべての社会主義政党の焦眉の任務は、大衆のなかでの煽動をつよめ、あらゆる国の外交家どものうつ芝居の仮面をばぎとり、**同盟をむすんでいるすべての強国**が演じ、憲兵の機能の直接の遂行者たちも、この憲兵の協力者や友人や資金提供者たちも、すべてが一様に演じている卑劣な役割を証明するあらゆる事実を、はっきりと手にとるようにしめすことである。

国会——ここでイズヴォリスキーの報告とカデット＝オクチャブリストの質問がおこなわれるはずである——のロシア社会民主党議員には、いまやきわめて重い、だがまたきわめて高度な大きな義務が課せられている。彼らは反動の主要国、反革命の首謀者の政策を隠蔽している機関の成員となっているのである。だから彼らは**あらゆる真実をかたる**手腕と勇気を自己のうちに発見しなければならない。現在のような時機にあっては、黒百人組的国会の社会民主党議員たちには多くのものがあたえられているが、しかしまた多くのものをもとめられてしる。なぜなら、彼らをおいては、国会で、オクチャブリスト＝**カデットの**見地からでなしにツァーリズム反対の声をあげるものは**だれもない**からである。ところでカデットの「抗議」は、こういう時こういう事情のもとではなによりも悪い、というのは、それは同じ狼の政策のために**同じ資本主義的狼の群のなかから出た**抗議にすぎないからである。

国会のわが党組織も、その他のすべての党組織も、仕事にとりかかるがよい。大衆のなかでの煽動は、いまや、普通るときより百倍も多くの意義をもつようになっている。そのばあい、わが党のあらゆる煽動の最前面に、つぎの三つの事情をおしださなければならない。第一に、黒百人組をはじめカデットのそれをもふくむあらゆる反動的、自由主義的出版物とは反対に、社会民主党は、会議であれ、大国の協定であれ、オーストリアに対抗するイギリスとの同盟あるいはドイツに対抗するオーストリアとの同盟であれ、あるいはその他のどんなものであれ、そうしたものの外交遊戯から仮面をはぎとるものである。われわれの仕事は、すでに成立している、そして各国政府がもっと大っぴらな交渉の茶番劇によって隠蔽しようと全力をあげている諸大国の反動的陰謀の**事実**をしめすことである。外交的茶番劇に反対し、人民に真実をあきらかにし、反プロレタリア的な国際的反動を暴露しよう！ 第二に、われわれは、この陰謀の、口さきだけでない実際の成果と結果——トルコ革命にたいする攻撃、ペルシア革命の圧殺にたいするロシアの協力、他国の内政にたいする干渉と民主主義の基本原則である民族自決権の蹂躪——とをあきらかにしなければ

ばならない。わが党の綱領は、世界のすべての社会民主党の綱領と同じように、この権利を擁護している。そして「兄弟であるスラヴ人」についての、一方ではオーストリア人の、他方ではロシア黒百人組の配慮ほど反動的なものはない。これらの「配慮」は、ロシアがバルカンで、昔からそれで名をはせたあのもっとも卑劣な陰謀をおおいにかくすものである。これらの「配慮」は、つねに、あれこれのバルカン諸国における真の民主主義にたいする謀殺の企てとなる。バルカン諸国にたいする大国の唯一の心からの「配慮」というものがありうるとすれば、それはつぎの一点、そしてただこの一点にある。すなわち、彼らのことは彼らにまかせ、外国の干渉で彼らの生活をそこなうことなく、トルコ革命を邪魔だてしない、ということである。しかし、もちろん、労働者階級はこのような政策をブルジョアジーに期待することはできない！

すべてのブルジョア政党は——わがカデットをもふくめて名称のうえではもっとも自由主義的、「民主主義的」なものにいたるまで——資本主義的対外政策の立場に立っている。これが、社会民主党のとくに精力的にしめさなければならない第三の事情である。自由主義者とカデット党は、事実上、資本主義諸民族のおなじ競争を擁護していて、ただ黒百人組とは異なった競争形態を強調してるだけであり、げんざい政府が抛りどころとしているものとはちがった国際協定をもとめているだけである。そしてブルジョアの対外政策の一つの型に反対し、おなじ政策の他の型を支持する自由主義者のこの闘争、政府が他国の政府にたちおくらしている（略奪と干渉のうで！）というこれら自由主義者の政府非難は、大衆をもっとも墮落させる影響を彼らにあたえている。あらゆる植民地政策を打倒せよ、あらゆる干渉政策と、他国の土地、他国の住民、新しい特権、新しい市場、海峡等々を獲得しようとする資本主義的闘争の全政策を打倒せよ！ **社会民主党は「平和で公正な」資本主義的進歩というばかげた素町人的空想をいだかない。社会民主党は全資本主義社会とたたかうものであり、国際的な革命的プロレタリアートのほかに、平和と自由の擁護者はこの世にないことを知っている。** 第15巻 P214~216 「バルカンとペルシアの事件」
※青字は青山 『プロレタリー』第三七号、一九〇八年十月十六（二十九）日

ポイント

1. 仮面をはぎとり、茶番劇によって隠蔽しようとするものを暴露し、人民に真実をあきらかにする。 **事実による暴露**
2. 問題の解決策の提起。 **正しい政策の提起**
3. すべてのブルジョア政党は——わがカデットをもふくめて名称のうえではもっとも自由主義的、「民主主義的」なものにいたるまで——資本主義的政策の同じ立場に立っていること、その「政策の型」が違うだけだということを精力的に示さなければならない。このような「同じ立場」の違った「型」の「政府非難は、大衆をもっとも墮落させる影響を彼らにあたえている。」ということをしつかりと認識する必要がある。

ブルジョア政党は同じ資本主義的政策の立場に立っている。おなじ政策の他の型を支持する者の政府非難は、大衆をもっとも墮落させる影響を彼らにあたえる。